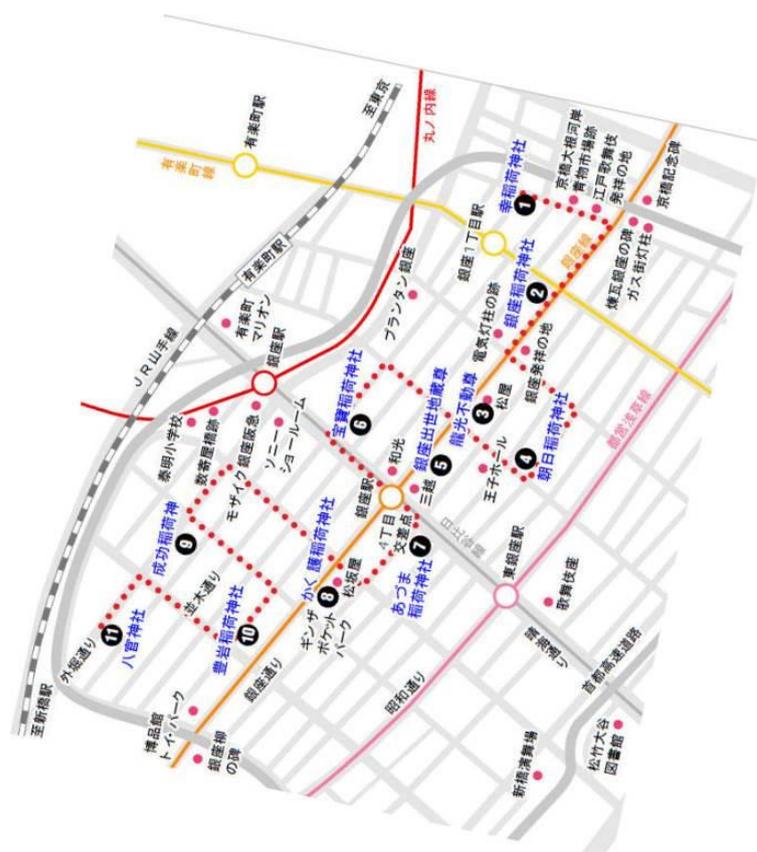


「地図豆」の地図を広げて街歩き

46-1 銀座八町神社めぐり（距離約 2.5km）

銀座八丁十社の神社ですが、そのうち二社は私有ビルの上で、特別な日以外は参詣できない。ですから、ふだんは銀座八丁八社めぐりになる。さらに、プラタモリで紹介した銀座の小路や新橋の地下道もめぐる。

ルートマップ



【道順】

東京メトロ京橋駅→歌舞伎発祥の碑・青物市場跡→京橋記念碑・ガス街灯塔→幸稲荷神社（銀座 1-5）→銀座稲荷神社（銀座 2-6 越後屋ビル屋上 見学不可）→銀座発祥の碑→龍光神社（銀座 3-6 銀座松屋屋上）→朝日稲荷神社（銀座 3-8-10）→銀座出世地蔵尊・三囲神社（銀座 4-6-16 三越屋上）→路地・宝童稲荷神社（銀座 4-3-14）→路地・あづま稲荷神社（銀座 5-9）→かく護稲荷神社（銀座 6-10-1 松坂屋屋上）→成功稲荷神社（銀座 7-5 資生堂本社 見学不可）→路地・豊岩稲荷神社（銀座 7-8 資生堂ザ・ギンザ裏通りの路地）→銀座の柳碑→地下道たどって→JR 新橋駅

地図豆知識：銀座八丁十社と稲荷信仰

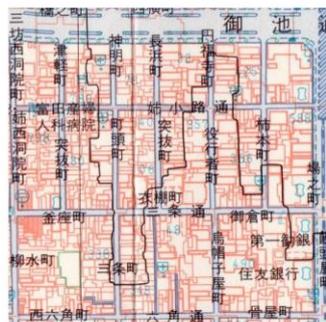
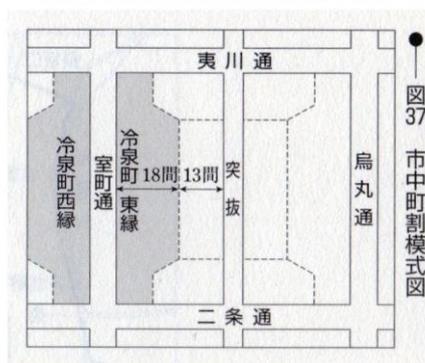
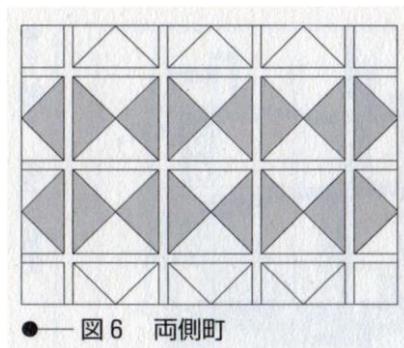
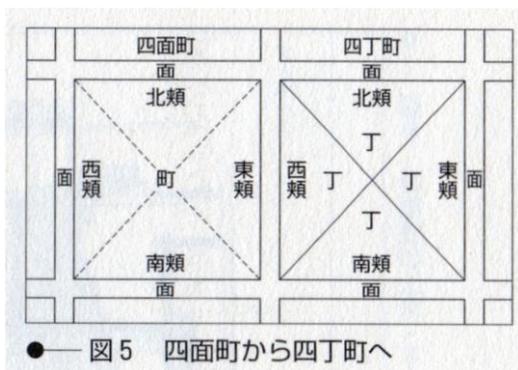
稲荷というのは、稲生（いねなり）から来たという説があるように、元来は穀物・食物の神であり農業を司る神である。稲荷社は農業神であったのだが、人々に永く守られ慕われているうちに火災からの守り神、あるいは商売繁盛、家内安全を祈願するようにもなった。

銀座に稲荷神社が多いのは商人の町であったから。

ちなみに、稲荷の主神である茶枳尼天（だきにてん）が乗っているのが白キツネであることから、神秘的な霊力をもっている動物として信仰対象となった。

地図豆知識：銀座小路と街の成り立ち

平安京などの、碁盤の目状の街づくりである条坊制では、その街区内の地割は、南北の小路を通して、各宅地は東西からアプローチした（二面町：8世紀以降）。次の段階では、街区四周に開く形状へと変化する（四面町：12世紀後半）。その後、それぞれの面が地域的まとまりを持つ「四丁町」（14世紀末）を経て、道路を挟んだ両側が一体化した地縁共同体の「両側町」（15世紀中）となる

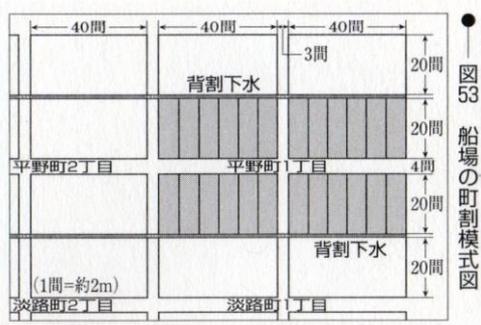


その後、豊臣秀吉の時代になると（16世紀）京都の市街地に短冊状の町割りをほどこした。条坊制地割の街区の裏には未利用地があったので、この中央南北に小路（突抜）を通したのだ。

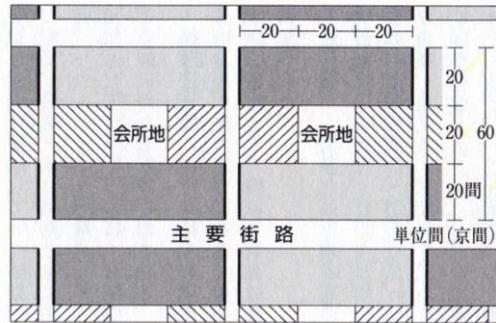
大阪の町人地船場もまた秀吉の手によって町割りが行われた。辺りは淀川が作る低湿地であったから、水系を整理して埋土による宅地造成をした。その上で、方形の街区とし、背割り下水を界とした両側町（京都とは異なる）を構成した。

そして、徳川家康が江戸へ入府し、16世紀末町割りなどに着手する。沽券図などから推測すると、当初のそれは秀吉の大阪船場の町割りをベースとし、中央に会所を設ける工夫があった。（1間＝約2m）（主に『町家と町並み』伊藤毅から）

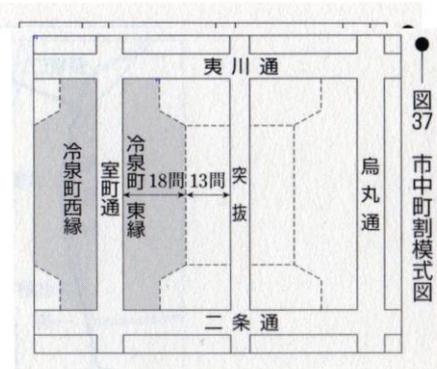
豊岩稲荷神社やあづま稲荷神社へと続く小路は、まさに船場町割り図にあった背割り下水が変化したものと思われる。



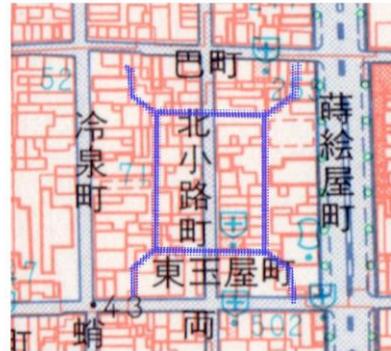
● 図53 船場の町割り模式図



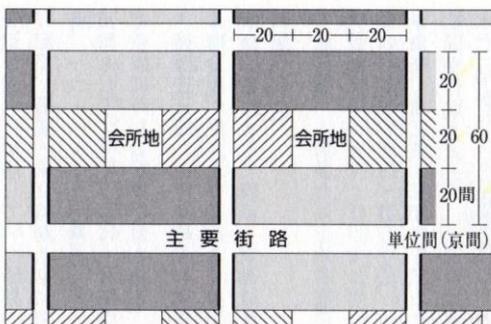
● 図60 江戸下町の町割り模式図



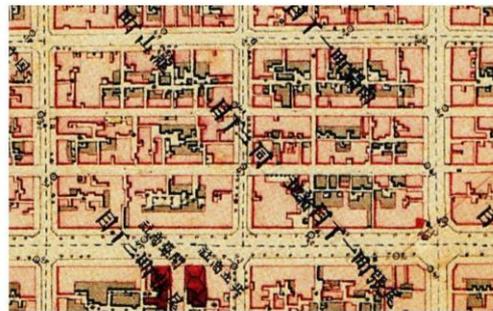
● 図37 市中町割り模式図



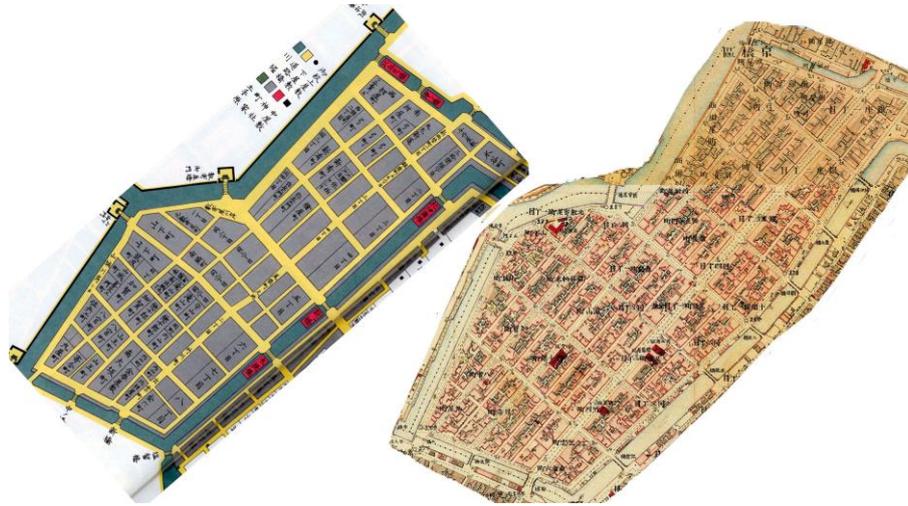
現在の京都（それぞれの町（名）が道路の両側にある）



● 図60 江戸下町の町割り模式図



明治期の銀座（主要街路と小路で仕切られた）



銀座（江戸切絵図と東京の明治期 1/5,000 地形図）



現在の東京の 1/10,000 地形図

- ・ 歌舞伎発祥の碑・青物市場跡・京橋記念碑・ガス街灯塔
- ・ 幸稲荷神社： 商売繁昌、家内安全、縁結びに御利益があるとか。
- ・ 銀座稲荷神社（越後屋ビル屋上 見学不可）： 銀座のお稲荷さんとして、火防、商売繁昌に信仰を集めているとか。
- ・ 銀座発祥の碑： 中央通りにある。
- ・ 龍光神社： 願望成就、家内円満、商売繁盛にご利益があるといわれる。龍光は流行に通ず、として、ファッション関係の人の祈願にもご利益多いとか。
- ・ 朝日稲荷神社： 靈感あらたかで、町内だけでなく全国からの参詣者も多いとか。
- ・ 銀座出世地蔵尊・三囲神社： 祈願して成就しないものはないといわれる銀座の地蔵さん。



銀座出世地蔵尊と???

- ・ 宝童稲荷神社：健やかな子どもの成育に御利益があると伝えられる子育て稲荷さん。
- ・ あづま稲荷神社：伏見稲荷より分霊してお祀りした。火防、盗難よけ。
- ・ かく護稲荷神社：京都伏見稲荷より勧請してお祀り。関東大震災時に日暮里の大火より町内を守ったことで有名だとか。
- ・ 成功稲荷神社（資生堂本社 見学不可）： 満金龍神成功稲荷を祀り、商売繁盛、事業成功にご利益があるとか。
- ・ 路地・豊岩稲荷神社：うーんと珍しい路地を抜けて、縁結び、火防の神。女性の参拝が多いといわれる豊岩稲荷神社へ向かう。
- ・ 銀座の柳碑と新橋地下道：JR 下の地下道へ向かう。



ビルの中の小路と豊岩稲荷

少しだけ地形観察：かつて銀座は、日比谷入り江を挟んで半島のような小さな高まりだった。この入り江は、江戸期に入って埋め立てたもの。最新のデジタル標高地形図を見ればそのようすが明らかになる。

さて、タモリのように、現地で微高地の高まりを見つけられるでしょうか。

それは無理でも、もっと大きな高まりなら地名からならかんたんに発見できる。上野、白山、目白台、代官山、白金台、高輪台などは高台、鶯谷、谷中、茗荷谷、雑司ヶ谷、四谷、市ヶ谷、渋谷などは文字どおり谷である。そして、神田、早稲田、五反田、三田、田町などは田にかかわる地名、日本橋、京橋、柳橋などは川に近い地名だから、低い土地や軟弱な地盤が予想される。



デジタル標高地形図とその昔の銀座

+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu ++